

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	5-3-1	事業名	都心まちづくり戦略の策定及び推進				
担当	市民まちづくり局企画部都心まちづくり推進室都心まちづくり課 伊関 211-2692						
全体計画							
事業内容	<p>少子高齢化の進展や、コンパクトシティ推進の重要性の高まりといった社会状況や経済状況の変化、一方で民間都市開発が活発化するなど、都心をとりまく環境は大きく動いている。これら都心を取り巻く様々な要因を的確に踏まえ、将来を見据えた都心のまちづくりを一体的、効率的に進めるために、ここ10年程度を計画期間とする中期的な戦略が必要であることから、「都心まちづくり戦略」を策定し、魅力と活力あふれる都心のまちづくりを推進する。</p> <p>また、この戦略を実行性(実効性)のあるものとするため、産官学による「(仮称)都心まちづくり会議」を立ち上げ、戦略を確実に実施するとともに、都心のまちづくりに関する様々な情報の共有や意思の統一を図るほか、庁内連携体制の確立、都心再生推進のための財源の仕組みについても併せて検討する。</p>		<年度別の事業内容>				
			<p>【平成19年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都心まちづくり戦略の策定検討費</li> <li>・(仮称)都心まちづくり会議立上げ・運営費</li> <li>・都心再生推進にかかる財源調整検討費</li> </ul> <p>【平成20～21年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都心まちづくり戦略の策定検討費</li> <li>・(仮称)都心まちづくり会議運営費</li> <li>・都心再生推進にかかる財源調整検討費</li> </ul> <p>【平成22年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)都心まちづくり会議運営費</li> <li>・都心再生推進にかかる財源調整検討費</li> </ul>				
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(予算)				
	<p>都心内の既存の空間と、今後新たに創出される空間の意義、役割を踏まえ、これらを魅力とにぎわい溢れる空間として、いかに一体的にとらえ、かつ効果的に連携・活用していくかを示す「都心空間計画」、及び、都心を取り巻く様々な要因を的確に踏まえ、将来を見据えた都心のまちづくりを一体的、効率的に進めるために、ここ10年間程度の手順をわかりやすく示す「都心まちづくり戦略」の方向性について検討を進めた。</p> <p>また、従来よりスピーディーかつ効果的に検討を進めるため、素案を立案する前段階から、学識者等より長期的・広域的な視点の意見をもらい、検討していくことが有効であることから、「都市環境・景観」、「空間プロデュース」、「都市交通」等、都心のまちづくりにおいて重要な視点で、高度かつ専門的な助言・提言を行う「都心まちづくり戦略特別顧問」を設置し、学識者3名を選任し、意見交換を重ねた。</p> <p>都心まちづくり戦略、都心空間計画策定検討 都心まちづくり戦略特別顧問設置</p>		<p>「都心まちづくり戦略」、及び「都心空間計画」の策定に向け、昨年度の検討を踏まえ、具体化の作業を進める。そのため、都心まちづくり戦略特別顧問、及び専門家を交えた「都心まちづくり戦略会議」を立ち上げ、幅広い意見を取り入れ、より詳細な検討を行う。</p> <p>都心まちづくり戦略、都心空間計画策定検討 都心まちづくり戦略会議運営</p>				
達成目標の状況							
項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
都心まちづくり戦略の策定		検討	検討	骨子策定	策定	/	策定 (19年度)
都心まちづくり会議の設置		検討	設置	/	/	/	設置 (19年度)
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力] [情報協力] [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p>							

## 平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	5-3-1	事業名	都心まちづくり戦略の策定及び推進				
評価(成果)		課題					
庁内での検討のみならず、「都心まちづくり戦略特別顧問」を選任し、意見交換を行うことで、従来無かった視点や国内外の先進事例を取り入れ、検討を進めることができた。		経済を活性化させ、風格と魅力ある都心を実現するためには、行政単独の施策展開では困難であり、官民が都心の将来像を共有し、効率的に連携して取り組まなければならない。 そのためには、地元事業者や商業者がまちづくりに参画し、民間投資を積極的に行いうる環境と体制づくりを早期に行うことが必要である。また、いかに地元事業者や商業者の意欲を高めていくかも課題である。					
今後の事業の予定・方向							
<p>これまでの都心まちづくりに関する取組みや、札幌駅前通地下歩行空間整備や創成川通アンダーパス連続化事業などの大規模公共施設整備による民間都市開発の誘発などがあいまって、都心における民間の都市開発意欲は高まりを見せている。</p> <p>これらの社会経済動向を踏まえ、この好機を捉え、札幌市が考えるまちづくりの方向性を「都心空間計画」及び「都心まちづくり戦略」として明示し、官民で議論・意見交換を行うことにより、官民が共通の目標像を持ち、都心のまちづくりに取り組んでいくことで、将来を見据えた一体的、効率的な都心のまちづくりが推進される。</p> <p>また、「都心まちづくり戦略」は10年程度の中期計画であり、「都心まちづくり戦略会議」の継続実施等により、その時々々の状況に対応しつつ、戦略に示された各事業の確実な実施を図っていく。</p>							
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	2,000	5,000	1,500	1,500	10,000	
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0
		市債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	2,000	5,000	1,500	1,500	10,000
予算	事業費	2,000	5,000	-	-	7,000	
	財源内訳	国・道支出金	0	0			0
		市債	0	0			0
		その他	0	0			0
		一般財源	2,000	5,000			7,000
実績	事業費	13	-	-	-	13	
	財源内訳	国・道支出金	0				0
		市債	0				0
		その他	0				0
		一般財源	13				13
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				50.1%	
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)							
(全体)							
[19年度] 策定検討及び会議運営に関して、委託を行なわなかったため							
[20年度]							